

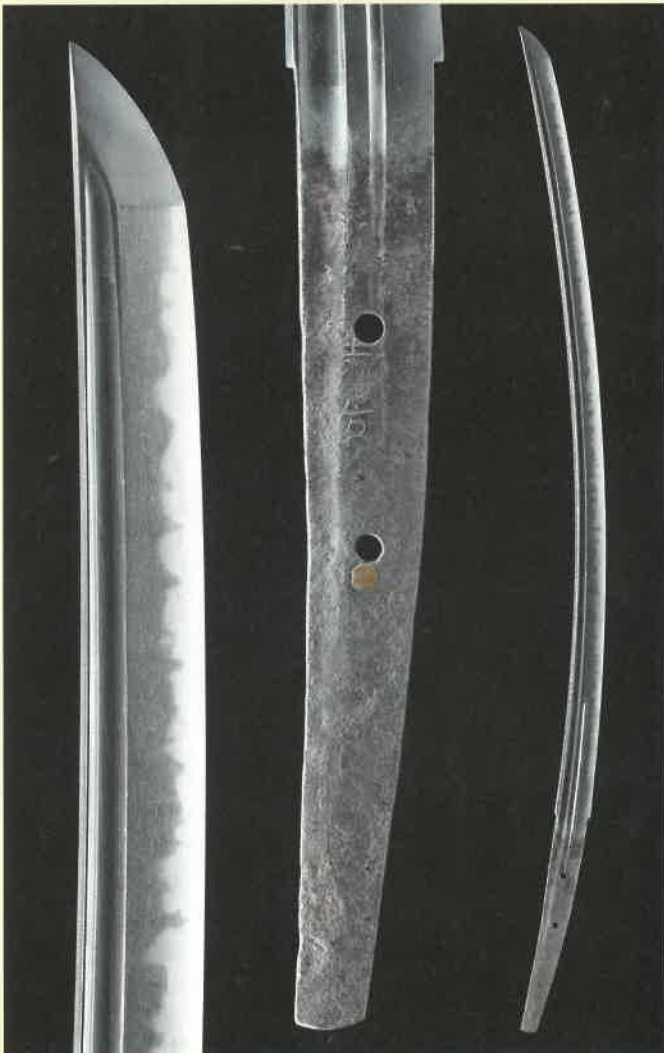
岡山県立

博物館だより

82号



〈企画展「江戸時代の岡山の学び—教育県の源流—」より〉
岡山県指定重要文化財 岡山藩学校扁額本紙（林原美術館蔵）



〈特別展「備前刀—日本刀の王者—」より〉
国宝 太刀 銘 吉房（小松コレクション ふくやま美術館寄託）

- 特別展を終えて ……②③ ■ 教育普及事業 ……⑥⑦
- 交流展を終えて ……④ ■ 博物館 NEWS ……⑧
- 企画展を終えて ……⑤ ■ INFORMATION ……⑧



〈交流展「つながる縁・つづく縁—岡山県と鳥取県—」より〉
木造 不動明王坐像（鳥取県 大山寺蔵）



〈特別展「むしあげ—岡山に花開いた京の焼物—」より〉
虫明焼 落雁水指 真葛香山作（個人蔵）

特別展を終えて

特別展「備前刀 ー日本刀の王者ー」

会期：平成29年9月8日(金)～10月15日(日)

日本刀の王者「備前刀」

岡山県立博物館では、平成29年度特別展として、『備前刀ー日本刀の王者ー』を開催しました。

日本刀は「鉄の芸術」といわれ、我が国を代表する美術工芸品です。近年、性別・世代を超えた刀剣ブームが社会現象となっており、改めて日本刀が注目を集めています。岡山県南東部にあたる備前国は、かつて日本一の刀剣産地として栄えました。備前でつくられた日本刀すなわち備前刀は、国内の刀剣産地の中で質・量ともに群を抜いた存在であり、日本刀の王者と呼ぶにふさわしいものです。

本展では、平安時代から現代まで、国宝5口・重要文化財11口を含む名刀84口を一堂に展示し、4章構成で備前刀の伝統と魅力を紹介しました。

第1章「刀剣王国備前」では、平安時代後～末期の古備前と呼ばれる初期備前刀から、後鳥羽上皇の御番鍛冶に数多く選ばれたことで備前刀の名を全国に轟かせた一文字派をはじめとする、鎌倉時代に隆盛した備前刀の各流派の名品を通して、刀剣王国備前の誕生とその精華を紹介しました。

第2章「備前長船ー名刀の代名詞」では、備前刀の最大流派である長船派が、圧倒的な質と量によって築き上げた「備前長船」の世界を、各時代の名品を通して紹介しました。

第3章「備前刀の伝統と展開」では、中世末期の自然災害や政治経済体制の変化によって衰退した備前刀の新たな展開について、地元で伝統の技を受け継いだ備前長船刀工と、各地の刀工による備前刀の名品を通して紹介しました。また、「奉納刀研磨プロジェクト」によって美しくよみがえった備前刀の奉納刀3口を初公開しました。

第4章「21世紀の備前刀」では、武器でありながら、芸術性と精神性を兼ね備えた美術工芸品として、世界的に高く評価されている現代備前刀を取り上げ、古名刀の再現と新たな美の創造に挑む現代刀工たちの作品とともに、アニメやマンガとコラボレーションした21世紀ならではの備前刀を紹介しました。



展覧会広報チラシ



展覧会場の様子

多彩な関連行事

会期中には、展覧会の内容と連動した関連行事を実施しました。計3回開催した記念講演会では、小池哲氏(日本美術刀剣保存協会岡山県支部 支部長)に「奉納刀研磨プロジェクト」、原田一敏氏(ふくやま美術館 館長)に「日本刀の王者 備前刀」、三上貞直氏(全日本刀匠会 会長)に「21世紀の備前刀」というテーマで御講演いただきました。

「備前刀名品鑑賞会」では、「女性DAY」・「中学生・高校生DAY」・「男性DAY」に分けて、実物の備前刀5口を実際に手にもって鑑賞していただきました。体験した皆様は、ガラス越しでは分からない細かな見どころをじっくり鑑賞できて、とても満足された様子でした。

「学芸員による展示解説」は計3回行いました。いずれも参加者が100人を超え、関心の高さがうかがえました。



備前刀名品鑑賞会「中学生・高校生 DAY」の様子

展覧会を終えて

本展は、全国の博物館・美術館や所蔵者様の御協力により、かつてない規模・内容の備前刀展となり、会期中11,609人の来館者をお迎えすることができました。岡山県を代表する美術工芸品である備前刀を紹介した本展を通して、我が国の歴史や文化への興味関心と理解を深めていただくと共に、日本刀の素晴らしさを感じ取っていただけたなら幸いです。今後も、このような魅力的な展覧会を企画・開催してまいりますのでどうぞ御期待ください。(学芸員 佐藤寛介)

特別展「むしあげ ―岡山に花開いた京の焼物―」

会期：平成30年1月19日(金)～3月11日(日)



展覧会広報チラシ

今から約200年前、江戸時代の後半に虫明焼の生産は始まります。虫明は瀬戸内海に面する風光明媚な地として知られ、当時は、岡山藩の筆頭家老、伊木家の陣屋がありました。伊木家14代目の当主、伊木三猿齋(忠澄)は、京都の陶工、清風与平や真葛(宮川)香山を虫明に呼び寄せ、茶

道具を制作しました。そのため、虫明焼は京焼の流れを汲む焼物と言われます。

当初、速水流の茶の湯を学んでいた三猿齋は、のちに裏千家11代家元、玄々齋に入門し、交遊を深めます。虫明焼の優れた茶道具が生まれた背景には二人の出会いがあり、その交流が偲ばれる作品が多数残されています。

このたびの展覧会では、幕末から明治にかけて制作された虫明焼の茶道具を特集し、「日本一清楚」とも評される虫明焼の魅力を再確認するとともに、京都と岡山の交流を検証しました。

展示の内容

展示は、4章立てで構成しました。概要はつぎのとおりです。

第1章 京へのあこがれ——初代清風与平を中心に

弘化4(1847)年、伊木三猿齋は、自らの陣屋がある虫明で茶道具を制作するために、初代清風与平を招きます。与平は、当時流行していた京都の焼物と同じものを虫明で制作



展示室

します。最初に、与平が制作した虫明焼を、そのモデルとなった京焼や中国製の磁器などとともにご紹介しました。

第2章 伊木三猿齋と裏千家玄々齋の交流

文久3(1863)年、裏千家11代家元である玄々齋が、千少庵の250回遠忌の法要を催します。その際に、三猿齋が玄々齋に虫明焼の水指を贈ります。玄々齋の箱書がともなう茶碗も知られており、このころ玄々齋と三猿齋の親交が深まっていたことがうかがえます。この章では、虫明焼をととして、玄々齋と三猿齋の交流を検証しました。

第3章 虫明に訪れた新風——真葛香山

明治元(1868)年、後に帝室技芸員となる真葛香山が虫明を訪れます。香山は京焼の文様や形を取り入れながら、「ナミグスリ」など虫明の原料を活かした作品を制作します。この章では、香山が制作した虫明焼と、香山の父である長造が制作した京焼を比較しながら展示しました。

第4章 伊木三猿齋のまなざし

幕末から明治へと時代が大きく変わる時期に、三猿齋は岡山藩筆頭家老として多忙を極めます。その中でも茶の湯への関心は失わず、虫明焼の制作を進めました。最後に、今につながる虫明焼の基礎を築いた三猿齋の好みを知るため、三猿齋が自ら手がけた茶碗と書画をご紹介しました。



記念講演

会期中には、橘倫子氏(茶道資料館学芸主任)による記念講演「虫明焼が伝える京の伝統文化——京焼の技と意匠、茶陶の美意識——」、(一社)茶道裏千家淡交会東中国地区のご協力によるバレンタイン茶会と茶席を開催し、好評を得ました。

展覧会を開催して

茶道資料館と共同で企画、開催することにより、茶道裏千家から調査、準備、広報など、様々な方面で協力を得ることができました。なお、本展覧会は、3月23日(金)から5月27日(日)まで、茶道資料館でも開催します。

(学芸員 重根弘和)

交流展「つながる縁・つづく縁ー岡山県と鳥取県ー」

会期：平成29年10月20日(金)～11月26日(日)

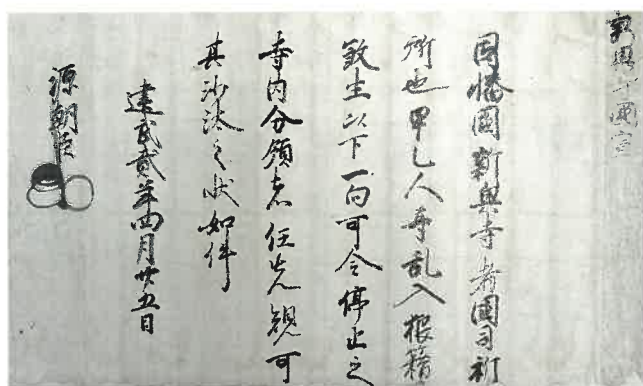
岡山県と鳥取県は、平成27年度より、両県立博物館が中心となって、文化交流事業を続けてきました。交流事業最終年の本年は、両県の「つながる縁(えにし)」を歴史資料・宗教美術・民俗資料を通じてご紹介しました。



展示会広報チラシ

展示会の構成

まず、両県をつなぐ歴史資料は、南北朝時代と戦国時代末期を取り上げました。



鳥取県指定保護文化財 名和長年安堵状(鳥取県 新興寺蔵)

戦国時代末期の天正9～10(1581～82)年には、織田信長の一軍として羽柴秀吉の軍勢が、因幡鳥取城、そして備中高松城に襲いかかります。それぞれの戦いは、戦国時代史の中でも知られていましたが、よく似た構図の鳥取城、備中高松城の戦いをつなげて展示しました。鳥取城の戦いに関係する資料として、天正8(1580)年、秀吉の襲来に備え始めた毛利方の大将・吉川元春が出した加知彌神社への寄進状や、秀吉側になり毛利軍と激戦を繰り広げた南条元統の感状、そして秀吉の鳥取城包囲の様子を江戸時代の鳥取藩池田家が描いた旧壘鑿覧を展示しました。また、備中高松城の戦いの関係では、吉備津神社所蔵の清水宗治書状や羽柴秀吉禁制、水攻めを敢行していた時に書かれた原田与七郎書状等を展示し、鳥取での戦いの翌年に、岡山を舞台に起きた戦国時代末期の戦いの様子についてご紹介しました。

宗教美術は、大山寺ゆかりの資料を紹介しました。大山寺は、奈良時代に創建された西国有数の山岳寺院です。岡山県出身の榮西は、鳥取県大山寺でも修行を積み、金山寺(岡山市北区)を中興しました。また、戦国時代に戦禍にさらされ再び衰退した金山寺は、大山寺より来山した豪円により再々興されました。その大山寺には、白鳳時代から奈良時代にかけての銅像4躯(いずれも重要文化財)があり、そのうちの3躯を公開しました。保存状態の良



重要文化財 銅造観世音菩薩立像
(鳥取県 大山寺蔵)

好な聖観音立像2躯に比べ、十一面観音立像は、火中にさらされたのか錆肌は荒れ、表面は鉄さびのような赤褐色に覆われています。南北朝時代、下山神社を建築する地ならしをしていたところ土中から発見されたという伝承があります。顔はややうつむき加減にして、肩の力を抜いたほっそりとした姿が愛らしい仏像でした。

牛馬安全・五穀豊穡を願う人々が大山寺に向かって歩いた大山道には、両県に繋がる民俗資料が確認できます。岡山県の津山地域には、男の子の初節句に泥天神をおくる習慣がありました。鳥取県でも、八頭郡の一部と、伯耆地方全域に、土天神を贈る習慣があります。かつては、大山町や米子市でも土天神が作られていたようです。

関連行事

記念講演会として、鳥取県史編さん室長の岡村吉彦氏に「羽柴秀吉の鳥取城攻めと吉川経家」についての最新成果をご講演いただきました。大山寺塔頭圓流院館長 吉島潤承氏には、「大山牛馬市と地藏信仰」について、分かりやすくお話いただきました。「ボランティアガイド」では、友の会ボランティア21人が会場でガイドし、展示内容がよく分かったと来館者からの評判も上々でした。

展示会を終えて

会期中に4,423人にご来館いただきました。両県の間を様々な視点でご覧いただく機会となりました。

(学芸員 野田蘭子)

企画展「江戸時代の岡山の学び～教育県の源流～」

会期：平成29年5月25日(木)～7月2日(日)

江戸時代の岡山県では、寛文9(1669)年、備前岡山藩を治めていた初代藩主池田光政(1609～82)が、藩士の子弟を教育する機関として「藩学校」を日本で初めて設立しました。翌10年には、領内の庶民教育のために閑谷学校を創建し、人々の教育を進めていきました。



展覧会広報チラシ

江戸時代の半ば

を過ぎると、県内各地に寺子屋や私塾が設置され、明治初期の記録では、寺子屋が1031校(全国3位)、私塾が144ヶ所(全国1位)開かれた。その一方で、吉備津神社の藤井高尚(1764～1840)たちによる国学や、津山藩の箕作家や宇田川家による洋学の発展など、県内や江戸藩邸等において様々な学びが盛んに行われました。

今回の展覧会では、江戸時代を中心に、県内各地で行われた人々の学びに係る文化財を取り上げ、岡山県の実験県としての歴史について紹介しました。



光後玉江肖像(美咲町 興禅寺蔵)

展覧会の構成

備前、備中、美作の各地で行われていた学びに関係するものを紹介し、全部で48件の文化財を展示しました。

備前から、藩学校の資料以外に、閑谷学校や御後園(現、岡山後楽園)等で行われた学びに関係するものも紹介しました。また、備中国窪屋郡倉敷村(現、倉敷美観地区)は、江戸時代を通して町場として栄え、一時期は約8,000人が住んでいました。天保5(1834)年、教諭所が開設されることになり、開設につい



岡山翼の書見台、出席帳、拍子木(個人蔵)

て倉敷代官所管轄地区(備中国南部や小豆島)に触れが出されました。倉敷村の教諭所をモデルに、各地でも人々の教育を行うことを代官所が求めたものと考えられます。

さらに美作の学びとして津山藩で、明和2(1765)年に藩主松平康哉(1752-1794)によって学問所が創建され、その後、天保14(1843)年に、学校施設が整備されました。明治に入り、藩学校が「修道館」と改称されました。津山藩主だった松平齊民(確堂、1814-1891)が校名を書いた扁額を展示しました。

また、展覧会の準備をしている中で、寛政12(1800)年に犬島の海底から出たカニの化石が見つかりました。片岡松塘は、全国の石や貝を集めて標本を作っていました。これらの博物学のコレクションは、県内で初めて確認されたものでした。



定兼学氏記念講演会

関連行事

記念講演会として、^{きだかねまなぶ}定兼学氏(岡山県立記録資料館長)から江戸時代の岡山の人々がどのような学びを展開していたのかについて、^{やまなかよしかず}山中芳和氏(岡山理科大学教育学部長)からは江戸時代の子どもたちを含めた人々の学びの様子についてお話をいただきました。また、女性史を中心に研究している^{めがあつこ}妻鹿淳子氏には、特別展示解説をお願いして、江戸時代の女性たちが豊かになるために学びたいという意欲を持っていたことについて、展示品を通して



山中芳和氏記念講演会

してお話していただきました。

また、林原美術館においても、同じ会期で「備前岡山藩の学びー藩主の教養・藩学校・閑谷学校ー」が開催され、藩学校や閑谷学校や、池田光政ら藩主たちの学びに関連する資料が展示されました。あわせて毎週土曜日には連携展示解説を行い、両館での展示を楽しんでいただけたようにしました。

展覧会を終えて

期間中3,294人にご来館いただきました。現在の岡山県が教育県といわれる源の一つが、江戸時代の人々の営みにあったことを改めて感じた機会となりました。

(主幹 内池英樹)

教育普及事業の概要

平成29年度も児童・生徒・一般の方々を対象にさまざまな教育普及事業を実施しました。

■館内授業・出前授業



館内授業

学芸員の解説を聞きながらの展示見学や、実物資料を用いて授業を行う「館内授業」、学芸員が学校に実物資料を持参して授業をする「出前授業」は、今年度も多くの学校にご利用いただきました。

館内授業では、お気に入りの文化財を一点探す時間を10～15分設けて、子どもたちが主体的に学ぶことができる

ような工夫もしています。出前授業では、今年も民俗分野に多くの申し込みがありました。あわせて67校の利用がありました。



出前授業

■学芸員による展示解説

展覧会にあわせて随時、学芸員が展示内容の解説を行っています。展覧会の内容を詳しく、展示資料を分かりやすく説明しています。今年度も毎回多くのお客様にお越しいただきました。



特別展「備前刀—日本刀の王者—」
展示解説



特別展「むしあげ—岡山に花開いた
京の焼物—」展示解説

■中学生職場体験



民俗資料の取り扱い

平成29年度の職場体験学習には、9校23人の中学生が参加しました。普段は触ることも、間近で見ることもない文化財を前に、緊張しつつも真剣に取り組みました。



美術資料の取り扱い



刀剣の取り扱い

■博物館実習



学芸員資格の取得をめざす県内外の大学生14人が、当館での博物館実習に参加しました。8月中旬の5日間の日程で、文化財の取扱いなどの実技や博物館行事の支援などに取り組みました。



■吉備の国ジュニア歴史スクール

「吉備の国ジュニア歴史スクール」も9年目を迎え、今年度からは2日間の日程で実施しました。

参加校は、新見市立神代小学校（48人）、笠岡市立城見小学校（63人）、笠岡市立六島小学校（5人）、笠岡市立真鍋小学校（5人）でした。

1日目は、博物館で実物資料に触れながら、各学校周辺地域の歴史を学びました。あわせて展示室も見学しました。



展示室見学

2日目は、1日目の学習を終えて、さらに自分たちで調べたことや考えたことなどを模造紙や画用紙にまとめ、学校で発表会を行いました。

今年度の事業の様子は、報告集にまとめて県内のすべての小学校に配布しています。



学習発表



学習発表

館内授業

■博物館講座

県民を対象にした「岡山の歴史と文化」をテーマに行う講座でスタンダード・スペシャルの2コースを開講しています。

前者は、学芸員が平素の研究成果を博物館資料に基づいてお話しするもので、全4講座（6月火曜・木曜開講）を

78人が受講しました。後者は、各研究分野の第一人者である講師による専門的な講座で、全4講座（7月～10月）を97人が受講しました。



スタンダードコース



スペシャルコース

■ジュニア学芸員講座



カルチャーゾーン見学

「ジュニア学芸員講座」は、中学生・高校生が「ジュニア学芸員」として博物館の仕事を実際に体験し、本物の文化財を通して岡山県の歴史と文化を学ぶものです。

今回は12人が参加し、8月1日（火）～3日（木）の計3日間にわたり、様々な分野の文化財の取り扱いや、施設や史跡の見学、博物館行事などを体験しました。



資料の取り扱い

参加した生徒たちは全員熱心に取り組んでくれ、多くのことを学んだようです。今回の講座が、将来の学芸員や博物館ファンを育む機会になることを期待しています。



施設・史跡見学

また、講座の様子をまとめた報告集も作成しましたので、ぜひ御覧ください。

寄贈資料紹介

今年度も、当館に貴重な文化財をご寄贈いただきました。一部ですがご紹介します。
ご寄贈者の趣旨に沿い、広く皆様に還元できるよう、保存と活用につとめて参ります。

文書資料

- ・備前軍記 巻一・巻二
- ・殺報転輪記
- ・山田方谷書幅

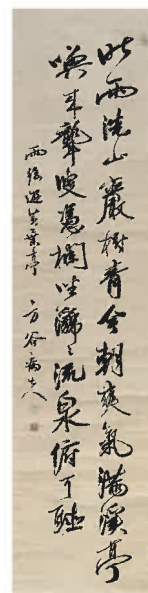
民俗資料

- ・押絵雛・雛人形
- ・アルマイト弁当箱
- ・飼養管理板
- ・韓国併合記念章

武具など工芸品

- ・脇差 銘 備前住長船清光
- ・鉄三十二枚張筋兜鉢（復元製作）
- ・火縄式鉄砲 銘 惣巻張
江州国友彦右衛門喜三石

（学芸課長 竹原伸之）



山田方谷書幅



火縄式鉄砲
銘 惣巻張

INFORMATION

●●●●● 平成30年度の展覧会予定 ●●●●●

特別展 「サムライアーマー甲冑

—岡山ゆかりの名品と変わり兜—

会期 平成30年5月25日(金)～7月8日(日)

企画展

「報恩大師信仰と寺院縁起 四十八ヶ寺を中心に」

会期 平成30年9月13日(木)～10月14日(日)

特別展 「岡山ゆかりの肖像」

会期 平成30年10月19日(金)～11月25日(日)

交流展

岡山・愛媛文化交流事業Ⅰ

「伊予の戦国時代」

会期 平成31年1月18日(金)～2月17日(日)



朱漆塗紅糸威縫延腰取
二枚胴具足
（彦根城博物館蔵）



重要文化財 絹本着色 小早川秀秋像
弓箆善温賛
（京都市 高台寺蔵）



木造 俱利迦羅龍王像
（岡山市 明王寺蔵）



河野通直(牛福)感状(天正7年)
（愛媛県歴史文化博物館蔵）

岡山県立博物館だより 第82号

発行日／平成30年3月11日

発行者／岡山県立博物館 館長 山田 寛人

〒703-8257 岡山市北区後楽園 1-5

TEL:086-272-1149 FAX:086-272-1150

URL <http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kenhaku/hakubu.htm>

この用紙は古紙・再生紙を
含んでいます。